

日時	平成30年7月17日(火) 5校時
学級	第2学年4組(男子17人, 女子19人, 合計36人)
場所	2年英語教室

## 単元について

### (1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領(平成29年)外国語の1目標(4)話すこと[発表]イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」に基づき、Lesson1からLesson4までの既習事項の統合的な活用を指導するために設計した単元である。単元末には、8月に来日予定の新しいALTに日本の休日を楽しんでもらうために、お勧めの場所や物を提案するというパフォーマンス課題を設定した。興味の湧きそうな情報や自分の考えなどを分かりやすく伝え、ALTに行動を促すことを目標としている。

1年次には好きな人や物をクラスで紹介する活動や校区内の小学生に学校紹介ビデオを作る言語活動に取り組みさせてきた。本単元では1年次の学びを基盤にし、伝えたい内容の順序、分かり易い展開や構成を考えさせ、さらに写真やウェブサイトなどの資料を提示しながら説得力のあるプレゼンテーションをする発展的な課題を設定することができる。

また、NEW CROWN ENGLISH SERIES 2のLesson3やLesson4で扱う未来形やI think (that)…, Let's Talk 2, 3で扱うif, mustなど既習の言語材料を活用することは、パフォーマンス課題として設定した言語活動を豊かにするために有効である。さらに、国語科の「鯉節—世界に誇る伝統食—」で学習した文章構成と表現の工夫、日本の文化について自分の考えをもつこととを関連付けることで、教科横断的な単元を構成でき、育成したい資質・能力を効果的に身に付けさせることができる。このことは社会との関わりに着目して物事を捉え、相手に配慮して情報を整理し考えを形成するという点において、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる指導にもつながる。

### (2) 生徒観

7月に実施したアンケート調査によれば、本学級で「英語の学習が好きである」と答えた生徒の割合は66%と高い。また、本単元の言語活動「話すこと」への不安をもっている生徒は31%であり、話すことへの抵抗感が低いと捉える。その要因は、これまでチャットやShow & Tell, スピーチなどの活動に繰り返し取り組んでいることではないかと考える。さらに「英語の授業で自分のことや気持ちを話そうとしている」に肯定的な回答をした生徒は97%、「英語を使えるようになりたい」と回答した生徒は91%と英語を話すことへの意欲は高い。しかしながら、話す活動の時に「伝えたいと思っても適切な英語がすぐに思いつかない。」というジレンマを感じている生徒も多く、語彙や表現の知識の不足が課題として挙げられる。

### (3) 指導観

1年次に英語に苦手意識をもった生徒が数多くいたという実態から、2年次の英語の授業においては、“Speak Confidently, Listen kindly, Try our best to communicate!”を合言葉にして、間違いを恐れず英語で話そうとする態度、さらにそれを受容する授業の雰囲気づくりに努めてきた。

本単元のパフォーマンス課題に取り組むに当たって、生徒たちが意欲的にプレゼンテーションを行えるよう、新しい表現を使うことにも積極的に挑戦させ、説明のために必要な言語材料をペアやグループを効果的に活用しながら楽しく習得できる工夫をしていく。ALTにお勧めの場所を提案するために、事前にALTにメールで好みなどについて収集した情報をプレゼンテーションに活用させることで、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を意識させながら自分の考えを形成させていく。また、メールを書く、返信を読む、口頭で提案する、質問に回答するという4技能を統合した活動をさせることで、コミュニケーション能力の総合的な育成を図る。また、語彙や表現の知識不足が原因で話すことに不安を感じている生徒のために、段階を踏んだワークシート等の活用やペアやグループでの言語活動に繰り返し取り組ませることを通して、言語材料と文法事項の定着を確実に図りたい。加えて、ALTとのTTであることを生かしてスピーチのモデルを示したり、必要となる表現の発音等を指導したりして、生徒が自信をもって発表できるよう配慮する。特に、支援の必要な生徒には、選択肢を用意したり、過去の生徒の発表例を見せたりするなどしてイメージをもたせ、発音の指導を個別に行うなどの手立てを行う。

## 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

ALTにお勧めする場所や物について、自分で調べたことや考えたこと等を整理し、聞き手に分かりやすく話すことができる。

(2) 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
① 間違えることを恐れず積極的に自分の考えを話している。 ② 聞き手に分かりやすく伝える工夫をしている。	① お勧めする場所や物について、自分の考え等を整理し、まとまりよく話すことができる。 ② 調べたことや自分の考えなどについて、既習表現を用いて正しく話すことができる。	/	未来形 (will, be going to), 助動詞 (must), 接続詞 (if, that), There is(are) ~の意味と文構造を理解している。

## 指導と評価の計画

(単元計画シートに示す)

## 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・間違えることを恐れず積極的に自分の考えを話している。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・助動詞 must の意味と文構造を理解している。(言語や文化についての知識・理解)

(2) 本時の学習展開

過程	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	具体的評価規準 【観点】 (評価方法)
導 入	(1) 挨拶, Small Talk ・ How are you? ・ What's going on with you?  (2) 復習 ・ プレゼンテーションに役立つ表現を確認する。	◇授業に臨む姿勢の合言葉を確認させる。 ◇生徒同士がやり取りし、話しやすい授業の雰囲気づくりを行う。  ◆単語プリントをペア・グループで協力し合って読めるようにさせる。	
	(3) 学習活動① ・ 紹介する場所を他の生徒に伝える。  (4) 学習活動②	◇スケッチブックに描いた絵を持って生徒同士にやり取りをさせる。 ◆活動の前に、板書でやり取りの方法を確認させる。	
展 開	Today's goal : ALT にしてもらいたいことを助動詞 must を使って書こう。  ・ 助動詞 must の文構造や意味を確認する。 ・ 過去の生徒やALTのモデルプレゼンテーションを見て学ぶ。 (5) 学習活動③ ・ 自分のプレゼンテーションに活用する方法を考え、発表する。 (個人→グループ→全体)	◇既習の意味と異なる新しい活用方法があることを学習する。 ◆ビデオから聞き取れた単語を板書で1語ずつ確認する。 ◇単元ワークシートで既習事項の助動詞 if の用法を確認する。 ◇板書で if 節を用いた文と must を用いた文の整合性のある組み合わせを考えさせる。	

	<p>【課題】「もし～ならば，ぜひ～してみてください。」という内容の文を考え，プレゼンテーションの内容に加えよう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ If you' re interested in history, you must go there.</li> <li>・ If you like hot food, you must eat it.</li> <li>・ If it is sunny, you must watch flowers there.</li> </ul> <p>・ALTのモデルを最後まで見る。</p>	<p>◆支援の必要な生徒には選択肢を与える。</p> <p>◇積極的に辞書を利用させる。</p> <p>◆JTEとALTがグループを巡り，必要な言語材料や，発音をアドバイスする。</p> <p>◇ALTのモデルを，次回のプレゼンテーション作成の参考にさせる。</p>	<p>助動詞(must)の意味と文構造を理解している。【言語や文化についての知識・理解】(ワークシート)</p>
ま と め	<p>(6) 振返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに振返りを記入する。</li> <li>・記入した内容を班(クラス)で共有する。</li> </ul>	<p>◇めあてに対応した振返りとなるよう指導する。</p>	

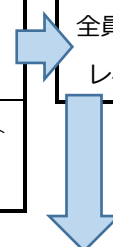
(3) 板書計画 (合わせて電子黒板を使用)

単元名	できるようになること	単元の目標	本時の流れ
単元の流れ	本時のめあて		
	学習活動① やりとりの方の法の確認	学習活動③ 例文 「もし～ならば，ぜひ～してみてください」 ・ ・ ・ ・ ・	
	学習活動② ビデオから聞き取れた語		
学習活動② 言語材料の用法の確認 if must			

教科	外国語	学年	2年	指導時期	7～9月
単元名	Enjoy Your Japan Holiday!				

	付けたい力（習得する内容）	評価方法
知識・技能	未来形（will, be going to）, 助動詞(must), 接続詞(if, that), There is(are)～の文構造, 天気の状態を理解し, プレゼンテーションに活用できる。	パフォーマンステスト ペーパーテスト ワークシート
思考力・判断力・表現力等	自分で調べたことや考えたことなどの情報を整理し, 内容をまとまりよく伝えることができる。（話すこと【発表】）	パフォーマンステスト ワークシート
学びに向かう力（主体性）	相手の状況を考えて, より分かりやすく伝える工夫をしている。	パフォーマンステスト ワークシート

ルーブリック		
項目 基準	発表内容	相手意識をもったコミュニケーション
A	お勧めする場所や物, その理由や自分の考えなどの情報を整理し, まとまりよく話している。	相手に必要な情報を自ら収集し, それらを身振り手振りや絵・図表等を効果的に利用して分かりやすく伝えている。
B	お勧めする場所や物, その理由や自分の考えなどについて話している。	相手に必要な情報を自ら収集し, それらを身振り手振りや絵・図表等を用いて伝えている。



課題設定	パフォーマンスの目的（想定されている状況, 相手に期待される結果, 生み出すパフォーマンス・作品等）	8月に新しいALTが黒瀬中に赴任する予定である。ALTにとっては初めての来日であり, 日本国内の観光にも興味をもっている。ALTに日本の休日を楽しんでもらうために, お勧めの場所や物の情報について新出言語材料を適切に活用して伝えたい内容を整理し, 写真やウェブサイト等を使って分かりやすく紹介することが生徒に求められるパフォーマンスである。
------	--	--

B評価 (A評価) の例

Hello. I'm ○○. Do you like history? Today I'm going to introduce Todaiji-temple. There is a huge statue of Buddha. It is 15 meters tall. If you like world heritage sites, you must go there. You'll learn about Japanese history. There are a lot of deer in the park near Todaiji. You can give deer crackers. Please enjoy there too. I hope you'll like these places. Thank you..

	第6次（2時間）	第5次（3時間）	第4次（7時間）	第3次（9時間）	第2次（2時間）	第1次（1時間）
指導計画	パフォーマンスさせる, 評価する ・電子黒板を使ってプレゼンテーションをさせる。 ・単元の振り返りをさせる。 ・評価を行う。	吟味させる ・発表の練習をさせる。 ・相互評価, 改善をさせる。	情報の収集, 選択, 知識・技能を活用させる ・行楽地についての情報を収集させる。 ・発表メモを用意させる。 ・効果的なプレゼンテーションの工夫を考えさせる。	知識・技能を習得させる ・未来形, 助動詞, 接続詞, (本時) There is(are)～の文構造, 天気の状態の指導 ・話の構成, プレゼンテーションの行い方の指導	情報の収集, 選択 ・ALTに質問のメールを書かせる。 ・ALTについての情報を基に, 紹介する行楽地を決定させる。	関心・見通しをもたせる ・期待されるパフォーマンスの提示 (モデル視聴) ・必要な知識, 技能を明らかにさせる。

